

No.34 第2856回 令和7年5月19日

今週の歌:我等の生業

プログラム

「ゲストスピーチ」

兵庫県立西脇高等学校 ダウスト絵麻さん

園田会長のテーマ

「夢の力 Power of Dreams」 ～ポジティブな発想でアクティブに行動！ Being Positive leads to Active～

5月12日(月) 第2855回例会記録

◎出席・・・会員数 43 名 出席 36 名 MU 5 名
(出席免除会員 5 名・休会 1 名)

会長の時間 吉田康志会長エレクト

日本のロータリークラブでは、例会は点鐘で始まり、点鐘で終わります。これは例会だけでなく、地区大会、地区協議会、IM等ロータリーの会合はすべて同じです。しかしながら、外国のロータリークラブでは、例会で点鐘するクラブは多くはないそうです。外国では点鐘の代わりに“お静かに願います”の発言があって例会が始まり、あるいは発言に続くお祈りの後に例会に入るというケースが多いようで、鳴らす場合も、食事が済んで幹事報告やスピーチが始まる前に切替の合図として鳴らすのが一般的で、それも鐘ではなく、法廷やオークションなどで使う木の板を木槌でコンコンと鳴らす木槌を叩くことが多いみたいで、開会閉会を鐘で告げるのは日本だけのようです。日本では、1920 年頃、東京クラブの例会で点鐘をしていたようで、それを他のクラブが真似ていったのではないかとされています。日本の学校では、授業の開始・終了時間は鐘を鳴らして知らせる習慣があり、江戸時代はお寺の鐘で時刻が伝えられました。それだけに、開始・終了のケジメをつけるという意味での点鐘は、日本人の習性に合っているのでしょう。ちなみに、点鐘は英語で Ship's bell や Time bell と言います。その由来は、大航海時代に船上で時間を知らせる鐘 (bell) だったようです。時計がなかった当時、航海の最中に時刻を知ることができたのは、太陽の高度が最大になった正午 (12 時) だけでした。正午以降は、30 分毎に砂時計をひっくり返しながらか、時刻を計っていたのです。そして、砂時計をひっくり返す 30 分毎にタイムベルを鳴らし、船内に時間を知らせていたそうです。例会時の点鐘は日本の常識。これは周りを海で囲まれ、船に馴染みの多い日本人らしいと言えるのかもしれない。



幹事報告

(来 信)

○地区事務所より、

- ・「令和 7 年大船渡市大規模山林火災」支援協力のお礼
- ・2025 年地区研修・協議会出席のお礼
- ・2024-25 年度クラブ管理運営セミナー開催案内
6 月 1 日(日) 13:30～
於：貸会議室レンタルスペースJ'エム神戸元町
- ・2024-25 年度公共イメージオープン委員会案内
6 月 10 日(火) 16:00～
於：神戸三宮 REI
- ・「感謝の集い」案内
6 月 28 日(土) 17:30～ 於：ポートピアホテル
- ・ロータリーカードについて
- ・入会 5 年未満の会員が集う同期会発足会開催のお知らせ
5 月 25 日(日) 14:00～
於：貸会議室レンタルスペースJ'エム神戸元町
- ・第 52 回神戸まつりおまつりパレード参加案内
5 月 18 日(日)
- ・R I 日本事務局財団室 NEWS

○神戸東 RC より、創立 5 周年記念誌

○富良野 RC・柏原 RC より、週報

(報 告)

・例会終了後、理事会を開催します。

ニコニコ箱

- 井村会員 早退お詫び。
矢納会員 ちょっといい事がありました。
来住(周)会員 早退をお詫びして。
蘆田会員 先日は園田会長にお世話になりました。ありがとうございました。
藤田会員 母校が春季高校野球兵庫大会で優勝いたしました。

※本日のニコニコ 18,000 円

誕生日・結婚記念日・連続出席 51,000 円

※本年度累計額 (5/12 現在) 1,677,073 円

🌸 本日の花:カーネーション

プログラム「ゲストスピーチ」
一般社団法人 mikke.project
代表理事 藤井立裕氏
理事 白髪真奈氏



私は一般社団法人 mikke.project の白髪真奈といいます。現在、放課後等デイサービスの仕事を通して発達障害を持つ子ども達と関わっています。今日は、そんな子ども達との関わりの中で学んだ、現在の子どもの姿、子ども達との関わりで大切にしていること、放課後等デイサービスまなびのやのこれからをお話しさせていただきたいと思います。

放課後等デイサービスは、小学1年生～高校3年生の受給者証をもった児童が利用できる障害児通所施設です。まなびのやでは、学校がある日は下校時刻～17:30、長期休暇等の学校がない日は10:00～17:00までお預かりしています。送迎はこちらで行っています。施設によって特色はさまざまですが、まなびのやでは、さまざまな体験ができるよう、月でプログラムを作成し、毎日実施しています。プログラムの中で、感覚遊びでお茶をたてました。抹茶をたてる時の音を聴き、抹茶の苦味を感じ、五感を刺激しています。また火おこしをしてカレー作りをしたり、シネマコーヒアンプレラ様にご協力いただき、課外職業体験を行ったりしました。

では、ここで、まなびのやで行っているプログラムの一部をぜひ皆様に体験していただきたいと思います。今日は、集団ゲームで協力して謎解きをしていただきます。同じ円卓の皆様で机の中心にある問題2問の答えを導き出してください。制限時間は5分です。それでは協力して頑張ってください。

〈集団ゲーム実施〉

それではスライドに戻ります。まなびのやに通所する子ども達と関わって感じた現在の子どもの姿は〈挑戦を恐れる〉〈正しい答えを求める〉です。焚き火で焼きマシュマロを作った時、ある子どもが「マシュマロは食べたことがないからいらない」と言い、食べることをためらっていました。経験したことのないものに対して大きな不安があるようでした。クッキングでのお菓子作りの時、「こんな形でいい?」と多くの子どもに聞かれました。無意識的にどんな形がいいのかを自分で考えることを止め、答えを教えてもらおうとしているようでした。そんな子ども達と関わるときに、私たち大人が大切にしていることは〈失敗が当たり前の環境を作る〉〈自他ともに認め合う機会を作る〉〈考える時間を作る〉です。子ども達が挑戦を恐れる理由は失敗することに対して大きな不安や恐怖があるからだと考えています。失敗することは悪ではない、むしろ経験

が増えるポジティブなことであると伝えています。そもそも、なぜ子どもは失敗を恐れているのでしょうか。それは、過度に褒められすぎた経験があるからだと考えます。「すごいね」と褒められることで承認欲求を満たす経験が多いと、褒められるという行為でしか自分自身の存在を認められなくなっているのです。結果を褒めることはもちろん、過程を褒めることを心がけています。それと同時に、成功するあなたが大切なのではない、失敗するあなたもひっくるめて大切だということを伝えています。人にはできることできないこと、得意なこと苦手なことがあります。他者と比べ、できないことを悲観的に捉えるのではなく、自分を認め、相手を認めることを知る機会を提供しています。まなびのやイベントでは、それぞれに役割があり、子ども達が企画から当日の運営まで行っています。デザインのような裏方の作業が好きな子どもがいれば、キッチンの中で黙々と作業をすることが好きな子どもがいる。接客が好きな子どももいる。それぞれができることを担当しています。イベント終了後には、打ち上げを通して互いの頑張りを認め合う時間を作っています。自分の好きや苦手を見つけ、相手の好きや苦手を知る1つの機会となっています。「溝の魚を釣りたい」そんな子どもには、「どうすれば釣れると思う?」と聞き返しました。すると、「釣り竿を手作りする」と支柱に風糸をテープで留めた簡単な釣り竿を作りました。どう考えても釣れる気配はありませんでしたが、あえて答えは言わず、見守りました。すると、「おもりがないから糸が沈まない」「糸の先に釣り針がないと引っ掛けられない」と次々に改善点が出てきました。焚き火では、先に何に火をつけるのか、薪の組み方はどうすれば良いのかを子ども達が考え、火おこしをしました。まなびのやで初めて火おこしをした時は、火を大きくすることができず、残念ながら失敗に終わりました。それから回数を重ね、今ではカレー作りを行えるようになるほど立派に火おこしをすることができています。子ども達には他人に答えを与えられる大人ではなく、自分で考え責任を持つ大人になってほしいと考えています。

これからも、子ども達が挑戦することを恐れず、好きなことや苦手なことがある自分を認め、考えられる大人になるように、さまざまな体験ができるよう全力で関わっていきます。NPO法人 cambio 様にご協力いただき、定期的に職業体験を行っています。さまざまな体験を提供するために、皆様の力をぜひお借りしたいです。子ども達の職業体験や見学を受け入れてくださる企業様、よろしく願いいたします。ご清聴ありがとうございました。

今後のプログラム

5月26日(月) 担当：ロータリー情報委員会
6月9日(月) 担当：会長・幹事・S A A

6月2日(月) 担当：社会奉仕委員会
6月15日(日) 親睦家族例会